

ヨリ諸入費ハ第二常備ヨリ繰替フヘキ旨ヲ達
シタレトモ來ル七月一日ヨリハ常費ヨリ支給
スヘキコトヲ布達ス○牛馬賣買稅絞油稅收入
ノトキ稼人仕譯書ヲ出スヘキ期限ヲ布達ス○
諸株式等賣買ニ定法ナキニヨリ其方法ヲ定メ
條例ヲ設ケタルコトヲ布告ス○生糸小繰印紙
卷用方ヲ布達ス○藥品ハ人命ニ關スル重要物
ナレハ質惡ノ品ヲ販賣貯藏スル者ノ罰則ヲ定
メタルコトヲ布告ス○米油限月賣買ヲ禁止ス
ルコトヲ布告ス

是歲一月九日御布告ニ曰ク明治四年辛未七
月中布告酒造其外取締規則ハ左之通り追加
ス

一 免許鑑札并ニ造高免許鑑札ハ貸借ヲ嚴禁
ス

但免許鑑札ヲ借受ケ醸造スル者アリテ
顯ル、ニ於テハ規則第六則密釀ノ廉ヲ
以テ處分シ造高免許鑑札ハ同則第二條
自儘釀造ノ廉ヲ以テ處分スヘシ貸渡シ
タル者ハ免許料五倍ノ科料金造免許鑑札

鑑札ノヲ申付ヘシ

以上太政官 ○二月八日御布告ニ日夕明治六年四月布告蠶種取締規則第四則第二節ノ次へ追加スルコト左ノ通り

一總テ右規則中其品取上科料取立ノ事ヲ記載セサル條ニ背ク者ハ五圓以内ノ罰金ヲ申付クヘシ

以上太政官 ○同月七日大藏省布達ニ日夕明治六年三月中改正ノ生絲賣買鑑札雛形書式ニ年月日認入ノコト掲載ナク往々不都合モア

ルニヨリ自今鑑札下渡ノ際ニハ別紙書式ノ通り年月日ヲ認入ルヘシ尤トモ是迄追々渡置キタル分ハ漸ヲ以テ認入ルコト、心得ヘシ
大藏省布達全書 ○同月十三日御布告ニ別紙雛形ハ略ス
日夕明治六年三月布告蠶種原紙賣捌規則ハ今般更ニ改正ス
蠶種原紙規則

第一條

一蠶種原紙ハ總テ當省ニ於テ澆立ノ上、左ノ賣捌所ニ於テ賣渡スニヨリ自儘ノ原紙澆

立賣買等ヲ許サス

原紙賣捌所

武藏國 深谷

岩代國 福島

信濃國 上田

第二條

一賣渡方ハ毎年四月一日ヨリ五月三十一日迄ヲ限ルニヨリ各地方管轄限リ取纏メ蠶種大總代ニテ其管轄廳ノ添簡ヲ以テ最寄賣捌所へ申立右日限ノ内ニ必ス買受ヘシ

第三條

一買受方ハ毎年製種免許ノ員數ニ照合シ春蠶並夏蠶掛合等ノ種類區分ヲ立テ總數取調製造人人員調書トモ相添申立ツヘシ
但原紙直段ハ春蠶ニ用ル原紙ハ千枚ニ付金貳百圓夏蠶其外ニ用ル薄紙ノ分ハ同斷ニ付キ金六拾圓ト定ルニヨリ原紙受取ノ節、即時上納スヘシ

第四條

一蠶種出來揚リノ節、原紙贏餘アルトモ決テ

八
流用ヲ許サ、ルニヨリ其地方管轄限リ取
纏メ其年九月十五日迄ニ最前買受タル節
ノ手續ヲ以テ最寄賣捌所へ差出シ代價下
昇ヲ願フヘシ其儘捨置更ニ翌年ノ用ニ供
スルコトヲ許サス萬一違犯ノ者アルニ於
テハ其品ヲ取上ケ原價二倍ノ科料ヲ取立
ツヘシ

第五條

一原紙流用萬一違犯ノ者アルニ於テハ春蠶
夏蠶等ノ種類ヲ論セス雙方トモ壹枚ニ付

キ新貨五拾錢宛ノ科料ヲ取立ツヘシ

第六條

一原紙贏餘ノ内製種人共内書各判等ヲ爲シ
餘紙ニ成リタル分ハ引續營業ノ者へハ檢
査ノ上更ニ翌年ニ至リ下渡スヘキニヨリ
夫々取纏メ員數一人別帳ヲ添へ第四條同
様最寄原紙賣捌所へ差出シ預方ヲ申立へ
シ尤トモ右預高ハ翌年原紙調書へ内譯記
載差出スヘシ且又休業スヘキ見込ノ者ハ
相當ノ直段ヲ以テ買上ルニヨリ別段取調

同所へ申立ッヘシ

第七條

一春蠶同時ニ養立ノ夏蠶初度ノ卵種ハ此規則中ノ原紙ヲ用ルニ及ハス各自勝手ノ紙ヲ用ユヘシ

第八條

一犯則ノ者アルヲ見出シ訴出ルニ於テハ事實取糺ノ上、取上品拂代金ノ十分一其訴主へ給與スヘシ且又取上品ナキ節ハ科料金ノ十分一ヲ給與スヘシ

第九條

一規則中大總代ノ取扱向ハ大總代ナキ地方ハ世話役ニテ取扱大總代世話役トモ無キ地方ハ戸長ニテ取扱フヘシ
以上太政官布告書○六月廿七日大藏省布達ニ曰ク酒造絞油其外新稅御施行ニ付キ諸入費ハ第二常備ヨリ繰替置キ別途請取方申出ヘキ旨、昨六年當省第六拾三號ヲ以テ達置キシガ諸稅則施行ニナリ右ニ係リタル諸費ハ來ル七月一日ヨリ悉皆常費ヨリ支給スヘ

十二
シ尤トモ今後税則御施行ニナラハ其年ニ限
リ官員旅費ノ外諸費ハ豫備ヨリ繰替置キ別
途請取方申出ヘシ尤トモ其年七月以後ニ御
施行ノ節ハ翌々年ヨリ常費仕拂ト心得ヘシ
但證券印税施行ニ付キ諸費ハ臨時費ト心
得ヘシ

以上大藏省布達全書 ○同月三十日大藏省布達ニ曰
ク牛馬賣買免許鑑札税ハ二月、絞油税ハ四月
收入ノ節、現在稼人仕譯別紙雛形ニ倣ヒ牛馬
ハ三月三十一日、絞油ハ五月三十一日限り差

十三
出シ爾後新規稼休廢業等ハ其時々届出ヘク
尤トモ本年ハ既ニ期限後ニ付キ往復日數ヲ
除キ三十日限り取調差出スヘシ大藏省布達全書 ○
十月十三日御布告ニ曰ク従前民間ニ於テ諸
株式等賣買ニ付キ一定ノ方法無ケレハ此度
諸株式取引所ノ方法ヲ製定シ普ク頒布セシ
ム尤トモ取引所創立ノ場所ハ東京大坂ニ於
テ一ヶ所ツ、取設クヘシ右取引商賣ヲ望ム
者ハ別册株式條例ニ照準シ管轄廳ヲ經テ大
藏省ヘ願出ツヘシ

株式取引條例目次

- 一 株式取引所創立ノ規則 第一條ニ至ル
- 一 肝煎ノ規則 第八條ヨリ至ル
- 一 株式并ニ株手形讓渡ノ規則 第十三條
- 一 社員ノ規則 第十四條ヨリ至ル
- 一 社員組合ノ規則 第十八條
- 一 社員手代ノ規則 第十九條ニ至ル
- 一 取引所一般ノ規則 第二十一條ヨリ至ル
- 一 取引所賣買ノ規則 第二十四條ヨリ至ル
- 一 新公債新株式等賣買ノ規則 第二十九條ヨリ至ル

第一節

- 一 利益金積立金并俸給ノ規則 第三十二條ヨリ至ル
- 一 税金并ニ報告ノ規則 第三十四條ヨリ至ル
- 一 條例改正ノ規則 第三十七條

株式取引條例

株式取引所創立規則

第一條

凡ソ商業ノ爲ニ緊要ナリトスル地ニ於テ株式取引所ヲ創立スルコトヲ許可シ其事務ハ都テ大藏卿ニ屬シタル國債頭ノ管轄タルヘシ

第二節

但シ營業ノ年限ハ創立ノ際ニ臨ミ之レヲ取
 極ムベシ
 日本政府ヨリ發行シタル或ハ將來發行スベ
 キ公債證書其他借金ノ證券ニテ讓渡ヲ公認
 シタル手形官許ヲ得テ創立シタル商業工業
 ノ株式又ハ證券賣買ヲ許シタル抵當證書鐵
 道郵船電信瓦斯水道鑛山等ノ如キ諸會社ノ
 株式類等ハ皆此條例ヲ遵奉シ株式取引所ニ
 於テ公ニ之レヲ賣買スルコトヲ得ベシ

第二條

第一節

此條例ヲ遵奉シテ取引所ヲ創立スルニハ少
 ナクトモ五人以上連名ニテ其地方官廳ノ奧
 印ヲ以テ創立願書ヲ東京大藏省ニ寮ヲ設ケ
 タル國債頭ニ差出スヘシ
 此願書ニハ右發起人等ノ姓名宿所資本金額
 入金スヘキ株數等ヲ詳細ニ記載スヘシ
 國債頭ハ此願書ヲ落手シ右發起人等ノ身許
 商業行狀等ヲ探索シタル上ニテ創立許可ヲ
 交付スベシ

第三條

第一節

發起人等ハ國債頭ノ創立許可ヲ得ハ官許ノ新聞紙或ハ他ノ方法ヲ以テ直ニ之ヲ公ニシ資本金額ヲ募ル爲ニ株式書込ノ案内ヲ爲スヘシ

此案内ニハ取引所定款ノ考案、資本金ノ總株數并ニ發起人等ヨリ入金スヘキ株高ヲ明細ニ記載スヘシ

取引所ノ資本金ハ每株百圓宛ニ取極メ發起人等ヨリ少クトモ其總高ノ三分一ヲ入金シ殘高三分二ヲ世上ニ案内シテ書込ノ株主ヲ

第二節

需ムベシ

第四條

發起人等ハ新聞紙ヲ以テ公達シ右ノ案内ニ應シタル株主等ノ集會ヲ爲シ投名法ヲ以テ三十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ差向キ五人以上ヲ選テ肝煎ト爲スヘシ但シ發起人株主ノ別ナク一株ニ付キ一説ヲ吐クノ理アルベシ

此選舉ニ應シタル肝煎等ハ同寮中ヨリ又二人ヲ選テ之ヲ頭取副頭取ト爲シ共ニ取引所

第二節

第一節

第三節

ノ事務ヲ管轄シ創立ノ上追テ定式集會ノ選舉マテ在職スヘシ
 肝煎ハ支配人書記勘定方簿記方其餘必用ノ手代等ヲ命シ取引所ノ要件録日記簿記ノ法ヲ定メ取引所建築ノ事務ニ取掛ルヘシ
 但支配人以下ノ者ハ株主社員ノ内ヨリ選任スルニ限ラス其職務ニ耐ヘキ人物ヲ擇テ命スヘシ尤トモ支配人ニ屬スヘキ者共ノ進退ハ支配人ヨリ肝煎ニ申立ルノ權アルヘシ

第五條

第一節

肝煎ハ此條例ノ趣意ニ違背セサル株式取引ノ成規社員申合規則等ニテ商業ノ爲ニ緊要ナリトスヘキ箇條ヲ取定メ國債頭ヘ其正寫ヲ出スヘシ

第二節

頭取ハ支配人ト共ニ株主等ノ入金ヲ交收シ資本金總高ノ三分二ヲ以テ日本政府ノ公債證書ニ引替ヘ其證書ノ種類利息番號枚數等ヲ詳細ニ書タル別冊ヲ添ヘ取引所ノ確實ヲ保証スル爲ニ之ヲ公立ノ銀行ニ預ケ公印ヲ鈐シタル請取書ヲ乞受ベシ

第三節

頭取支配人ハ銀行請取書ヲ國債頭ニ持參シ
資本金三分二ノ實額ハ之ヲ銀行ニ預ケ置タ
ルニ相違ナキコトヲ證シ其書面ニ請取書ノ
正寫ヲ添フベシ
但シ此正寫ニハ銀行ノ公印ヲ具フヘシ

第六條

國債頭ハ頭取支配人ヨリ取引所ノ名ヲ以テ
銀行ニ預ケタル公債證書ノ實額資本金ノ三
分二ニ相違ナキ實證ヲ得ハ其殘高三分一ヲ
以テ事實ノ入費ニ供シ開業ニ取掛リ差支ナ

第一節

第二節

キ哉否ヲ思考シテ後ニ開業免狀ヲ交付スベ
シ
但シ國債頭ハ開業ノ上ニテ追テ其商業ノ模
樣ヲ檢査シ賣主買主ヨリ差入タル證據金ノ
合高ヲ見合セ凡其四分一ニ應スル丈ノ高ニ
資本金ヲ増加セシムルノ權アルヘシ
頭取支配人ハ開業免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日
ヨリ取引所ヲ開キ商業ヲ始ムベキ旨ヲ新聞
紙ニテ公布スヘシ

第七條

第一節

頭取副頭取肝煎支配人書記勘定方簿記方等
都テ取引所ノ事務ヲ取扱フ者ハ取引所ニ於
テ株式ノ賣買本人或ハ仲買人タルコトヲ許
サス

肝煎規則

第八條

毎年二月一日ニハ株主并社員ノ定式集會ヲ
催シ投名法ヲ以テ十人ニ下ラス二十人ニ過
サル肝煎ヲ選舉シテ舊肝煎ト交代セシムヘ
シ

第一節

第二節

但シ此選舉ハ株主并ニ社員ヨリ凡ソ同數ニ
爲スベシ

肝煎ハ一ケ年在職タリト雖モ選舉ニテ重年
スルノ理アルベシ又事故アリテ欠員トナル
時ハ十日日前ヨリ通達シテ集會ヲ爲シ新員ヲ
補フベシ

第三節

新肝煎ハ定式集會ノ手初ニ同僚中ヨリ頭取
并ニ副頭取ヲ選舉シ翌年マテ在職セシムベ
シ
但シ選舉ニテ重年スルノ理アルヘシ又欠員

第一節

第九條

ノ節ハ速ニ再選シテ之ヲ補フベシ

肝煎ノ會議ハ衆說ヲ採ル若シ可否ノ發言同
 數ノ時ハ頭取ノ發言ニテ之ヲ決スヘシ
 但シ會議ハ出席ノ肝煎ノ半數ニ下ル時ハ之
 ヲ初ム可ラスト雖モ差向タル事務ハ其限ニ
 アラス

肝煎ハ金銀ノ出納家屋ノ營繕ヲ除クノ外ハ
 何事ニ限ラス一般ノ事務ヲ評議シ時々相當
 ノ規則ヲ設ケ又ハ之ヲ更正スルノ權アルベ

第二節

第一節

第十條

肝煎ハ毎月二ノ日七ノ日ヲ以テ集會定日ト
 爲シ毎月六回午前第十時ヨリ會議ヲ初ムヘ
 シ其會議スベキ事務ハ之ヲ二類ニ分ツ左ノ
 コトシ

定式事務 會議要件ノ讀上ケ取引ノ報
 告社員并ニ手代ノ進退等ナリ

臨時事務 買賣ノ差違或ハ社員ノ間又ハ社
 外買人ト間ニ起リタル事件ノ

ナ詮議等

肝煎集會ノ案内ニハ定式事務ト臨時事務ト

第二節

ヲ區別シテ取引所ニ揭示スヘシ
肝煎ヘノ報告其他ノ書面ニモ皆姓名ヲ具フ
ヘシ無名ノ書面ヲ出ス可ラス

第十一條

取引所ノ賣買差違ニ付キ社員ニ對シ社外ノ
者ヨリ肝煎ノ取扱ヲ乞フト雖モ格別ノ情實
ニ非レハ之ヲ取上ヘカラス但シ相手人員社前
ニ願人社外ノ爲ニ仲買ヲ勤メタル時ハ此限ニ
非ス

第二節

此場合ニ臨マハ社外ノ願人ハ肝煎ノ取扱ヲ

乞フ廉ヲ以テ社員同様ニ肝煎ノ取捌ヲ守リ
決テ違背セサル旨ノ誓詞ヲ爲スベシ

第十二條

肝煎ハ同僚中不行狀ノ者アリテ職掌ヲ盡サ
ル時ハ事宜ニヨリテ其者ヲ免職スベシ但
シ肝煎中ヨリ商議掛ヲ命シテ其是非ヲ議シ
次回集會ノ節肝煎ノ無名投書ノ法ヲ以テ三
分ニ以上ノ説ニ從ヒ其可否ヲ決スベシ
肝煎ハ又社員中ニ不正ノ所業ヲ爲シ規則ヲ
犯シ肝煎ノ取捌ニ從ハサル者アラハ衆議ニ

第二節

第三節

ヨリテ之ヲ除名スヘシ
肝煎ハ株主社員ノ手ニテ設ケタル私則慣習
法ヲ廢止スル權アリト雖モ此權ヲ施スニハ
先ツ集會ニテ之ヲ評議シ次回ノ集會ニ決議
スヘシ

株主并ニ株手形讓渡規則

第十三條

株主ハ何時ニテモ取引所ノ社員トナリテ諸
公債株式證券等ノ賣買ヲ爲シ或ハ中買ヲ爲
スコトヲ得ヘシ

第一節

第二節

但シ五株以下ノ株主ハ常例ノ手數ヲ經サレ
ハ社員タルコトヲ許サス且ツ株主タリトモ
取引上ニ於テハ都テ之ヲ社員ト唱フヘシ
株主ハ肝煎ノ許可ヲ得ルニ非レハ取引所ノ
株手形ヲ賣ルヘカラス質入ス可ラス又其株
ヲ質入トナシタル人ハ一切發言ノ權ナカル
ヘシ肝煎ニ選舉セラル、コトヲ得サルベシ
質入ノ株手形債主ノ方、流込トナル節ハ舊株
主ヨリ書面ヲ以テ肝煎ニ報告シ新株主へ讓
渡ノ手數ヲ爲スヘシ

第三節

社員規則

第十四條

取引所ノ社員ニ新入シ或ハ復社セント欲スル者ハ毎年二月二日ヨリ三月一日マテ并ニ八月二日ヨリ九月一日マテニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ此書面ニハ姓名宿所年齢商業等ヲ記シテ調印シ證人ノ連印ヲ要スヘシ肝煎ハ毎年四月一日十月一日ニハ取引所ノ社員ト爲シテ相當ナリト思考スヘキ人物ヲ社員ニ新任シ或ハ復社セシムヘシ

第二節

第二節

但シ入社ノ期限ハ一ケ年限ト定メ毎年新任重任ト心得ヘシ尤トモ身元金ハ金五百圓ト取極メ當日之ヲ支配人ニ差出スヘシ

第三節

社員望ミ人ハ取引所ノ株主或ハ社員ノ内ニテ二ケ年以上入社シタル三名ヲ以テ證人ト爲スヘシ此證人ハ望人新任ノ月ヨリ二年内ニ違約人トナル時ハ銘々金五百圓宛ヲ債主ニ辨フヘキ旨ヲ肝煎ニ約スヘシ但シ創立ヨリ二年間ニ社員シタル者ハ社外ノ人ヲ以テ證人ト爲スコトヲ得ヘシ

第四節

望人既ニ四年ノ間取引所ニ於テ社員ノ手代ヲ勤メタル時ハ其證人ハ二名ヲ以テ足レリトスベシ

第一節

第十五條

新任又ハ復社望人ノ姓名ハ證人ノ姓名ト共ニ選任前少クトモ八日ノ内ニ之ヲ取引所ニ張出スヘシ
但シ望人入社ニ付キ故障ノ筋アリト思考スル者ハ其趣ヲ封書ニテ肝煎ニ報知スヘシ
證人ハ望人ト從來ノ知己タルヘキヲ以テ其

第二節

第三節

身代向行狀等ニ付キ尋チアラハ逐一肝煎ニ報知スヘシ
取引所トハ更ニ關係ナキ諸會社ノ役人或ハ他ノ株式賣買所ニ加ハル者ハ社員タルヲ許サス若シ之ヲ隱シ他日露顯ノ節ハ違約人ト見做シ直ニ其者ヲ除名シ身許金ヲ返サ、ルヘシ

第十六條

一度破産ヲ爲シ或ハ借財滯ニテ公裁ヲ受ル者ハ其借財返濟ノ仕法皖ト立タル實證ヲ見

第一節

第二節

ルニアラサレハ社員ト爲スヲ許サス若又分散兩度ニ至ル者ハ借財皆濟ニアラサレハ入社ヲ許サス

二個年以上社員トナリテ此條例ニ違背セス申合規則ヲ破ラス又破産シタルコトモナク只自己ノ都合ニテ除名シタル者再ヒ復社ヲ望ムトキハ臨時ニ身許金ヲ納ルタケニテ別ニ證人ヲ要セス

但シ二個年以上ノ除名ナラハ新入同様ニ常例ノ手續ヲ爲スヘシ

第三節

申合規則ニ違背シタル者或ハ破産シタル者臨時ノ復社ヲ望マハ之ヲ取引所ニ張出シ肝煎ヨリ商議掛ヲ命シ其借財向仕方ノ立タル實證ヲ表スルタメニ社員中ノ債主等ヨリ満足ノ趣ヲ記シタル連印ノ書面ヲ出サシムヘシ尤トモ此書面ニ詐偽アラハ規則通りノ取扱ヲ受ケ異存ナキ旨ノ證書ヲ當人ヨリ出サシムベシ

但此望人一個年以上ノ除名ナラハ臨時ノ復社ヲ許サズ常例ノ手續ヲ爲サシムベシ

第一節

第十七條

社員タル者自己ノ都合ニテ除名セント欲ス
ルモノハ三月一日又ハ九月一日マデニ肝煎
ニ申立身許金ヲ取戻スコトヲ得ベシ

社員組合規則

第十八條

毎年社員ノ選任濟ミタル上ハ速カニ社員組
合目錄ヲ刊行スヘシ
但社員ハ互ノ申合ヲ以テ五人一組トナリ之
ヲ肝煎ニ報知シ身許組合ト心得ヘシ

第一節

第二節

若シ此組合ノ一人破産スルカ違約人トナリ
テ破産ニ及ヒ尙返金ノ仕法ニ十分ノ實額ナ
キトキハ肝煎自餘ノ四人ヲシテ若干ノ金ヲ
出サシムヘシ
右ニ付キ組合ノモノハ互ニ忠告シ此條例并
ニ申合規則ニ違背セサルヤウニ心付クヘシ
若シ組合中ニ不正ノコトアルヲ見當ラハ速
ニ其趣ヲ肝煎ニ通達スベシ
社員手代規則

第十九條

第一節

社員タルモノ其名代トシテ手代ヲ取引所ニ
出サント欲スルトキハ書面ニテ其趣ヲ肝煎
ニ申出ヘシ
此書面ニハ當人ノ宿所姓名年齢二十歳未滿ヲ許サス
勤年限取扱ヘキ事務金銀取引ノ權ノ有無ヲ
細記スベシ
肝煎ハ此書面ヲ八日ノ間張出シオキ異存ノ
人ナキ時ハ會議ニ出シテ之ヲ承諾スベシ此
承諾ナキ前ハ決シテ手代ヲ取引所ニ出ス可
ラス

第二節

第二十條

第一節

手代ノ姓名ハ其主任ノ姓名ト共ニ取引所ニ
揭示シ其主人ヨリ別ニ報知ナキ間ハ手代ナ
リト心得ヘシ
右ニ付キ手代タルモノ其主人ニ代リテ取結
タル約定ハ都テ其主人ノ引受タルベシ
手代ニ暇ヲ遣スカ或ハ其主任ノ權ヲ解クト
キハ主人ヨリ直ニ肝煎ニ報知シ肝煎ハ其報
知ヲ取引所ニ揭示シ其姓名ヲ取消スヘシ
主人除名セラルトキハ其手代モ同様ニ出

第二節

第三節

入ヲ禁セラルベシ
但手代違約人トナルトモ主人ヨリ其損毛ヲ
債主ニ償フトキハ手代ノ出入ヲ禁スルマテ
ニテ主人ハ尙社員タルコトヲ得ベシ
取引所一般規則

第二十一條

取引所ニ於テ爲スヘキ株式等ノ賣買ハ固ヨ
リ社員ニ限ルコトナレハ諸事申合規則ヲ遵
奉スベシ

第二節

取引所ニ於テ私ニ取引ノ約定ヲ結ヒ之ヲ公

第三節

ニセサル社員ハ雙方トモ違約人ト爲スヘシ
他ノ社員ト約定ヲ爲シ之ヲ破リタル社員ハ
違約人ト爲スヘシ

第四節

此違約人ノ姓名ハ頭取或ハ肝煎二名ノ差圖
ニテ之ヲ取引所ニ張出シ其當日ヨリ出入ヲ
禁スベシ

第五節

違約人ヨリ内濟示談ヲ申來ヲハ債主ハ之ヲ
肝煎ニ申出協議ノ上ニテ其示談ヲ聞届クベ
シ

第六節

取引所ニ於テ公私ノ場所ヲ論セス手代タル

第七節

者、其主人ノ耳目ヲ忍テ不正ノ取引ヲ爲スコトアラハ肝煎ハ事情ヲ探偵シテ其主人タル社員ニ忠告スベシ若シ此忠告ヲ納レサル社員アラハ肝煎ノ衆議ニヨリ相當ノ處分ヲ爲スベシ

取引所一般ノ取締ニ關係ナキ差違社員ノ間ニ起ラハ肝煎ハ仲人ヲ命シテ之ヲ和解セシムヘシ若シ仲人ニテ處置シカタキハ肝煎ノ一人之ヲ承テ和解スベシ

第二十二條

第一節

第二節

取引所ニ於テ取結タル賣買約定ノ取消ハ其約定ニ詐偽アル確證ナキ以上ハ肝煎ハ其申出ヲ取上ケサルベシ

取引所ノ證據金并代金ハ都テ銀行ノ切手ヲ以テ仕拂フベシ若シ正金或ハ紙幣ヲ望ムトキハ前以テ其約定ヲ爲シオキ銀行切手ト引替ニテ之ヲ拂渡スベシ

第二十三條

第一節

取引所ノ營業時間ハ毎日午前十時ヨリ午後三時マテト定メ歳首國祭等一般ノ祝日ハ休

業タルベシ

第二十四條

都テ時日ヲ期セサル賣買ノ約定ハ現場勘定ト看做スヘシ此現場勘定ニ付キ差繰起ラハ必ス三日ノ内ニ肝煎ニ申出ヘシ
賣買ノ約定ハ十五日并月末ノ日ヲ以テ仕切日ト定メ四仕切ヲ踰ユ可ラス若シ差繰起ラハ其期日ヨリ七日ノ内ニ肝煎ニ申出ヘシ
肝煎ハ右ノ申出ヲ承リ其相手方ニ迫リ従前ノ約定ヲ履マシムルコトニ盡カスヘシ

第一節

第二節

第三節

第四節

約定ノ高ハ取引品ノ原價ヲ問ハス其日ノ相場實價ニ見合セ凡ソ百圓以上タルベシ

第二十五條

約定日限ニ至テハ買主ハ午後三時マテニ代價ヲ持參シ賣主ヨリ取引品ヲ買取ルベシ若シ之ヲ怠ルトキハ賣主ハ右約定高ノ品ヲ他ニ賣捌キ其損毛ヲ前約ノ買主ヨリ拂ハシムヘシ尤トモ約定相場ト當日相場トヲ見合セ其間金ヲ出ストキハ此約定ヲ解クコトヲ得ヘシ

第一節

第二節

約定日限午後三時マテニ賣主ヨリ取引品ヲ賣渡サ、ルトキハ買主ハ前同様ニ之ヲ他ヨリ買求メ其損毛ヲ前約ノ賣主ヨリ拂ハシムベシ尤トモ間金ヲ出シテ約定ヲ解クコトヲ得ベシ

第二十六條

賣買ノ相談ヲ爲シタル上ニテ之ヲ取引所ノ支配人ニ申出テ簿記ニ書載セ約定ヲ爲スヘシ此時雙方ヨリ證據金ノ半高ヲ支配人ニ差入レ殘半高ハ翌日午後三時マテニ差入ルヘ

第二節

シ
若シ此殘證據金ヲ差入レサルトキハ其日ノ相場ニ見合セ前證據金ヲ以テ間金ヲ仕拂ヒ且償トシテ約定高千分ノ五ヲ違約人ヨリ相手方ニ拂ハシムベシ
證據金ハ約定高ヲ當日相場ニ見合セ實額ノ二割五分宛四分ヲ賣主買主ト雙方ヨリ差入ルヘシ尤トモ相場ノ高低ニ應シ數度ニテモ増證據金ノ追差ヲ支配人ヨリ相達シ常ニ二割五分宛ノ高ヲ減損セシメサルヘシ

譬へハ

某路鐵道株手形

百株
百一圓株

此原價

壹萬圓

約定相場 九一株ニ付キ
九十六圓

此實價

百株 九千六百圓

此證據金

賣主差入高

貳千四百圓

買主差入高

貳千四百圓

第三節

取引所ニ納ムヘキ手数料ハ左ノ通りタルヘシ

定期取引手数料 實價百圓ニ付 貳拾錢
現場取引手数料 同 拾錢

但仲買口錢ハ頼人トノ示談ニ任スヘシ

第二十七條

第一節

取引品ハ賣主ヨリ買主ニ對シテ其確實ナル
コトヲ保證シ利息割賦金元金ヲ請取ルヘキ
モノハ其手續ヲ爲シ一切難儀ヲ掛ケサルヘ
シ

第二節

買主ハ又記名ノ證券等ハ其手續キヲ歷テ之
ヲ領收スヘシ若シ其取引ニ付キ何様ノ難事

第三節

差起ルトモ此手續ヲ歴サレハ肝煎ハ一切之
 ヲ取扱ハス都テ公裁ヲ仰テ其理非ヲ決セシ
 ムヘシ
 記名ノ證券等ノ書替手續ハ至當ナル延引ア
 ラハ格別ナリト雖トモ約定日限後十五日ノ
 内ニ賣主ニテ手續ヲ爲シ買主へ渡スヘシ但
 抽籤或ハ他ノ法方ヲ以テ時日ヲ定メ受取ル
 へキ元金利息割賦金等ハ假令證券類ノ書替
 前タリトモ約定日限ノ後ハ都テ買主ニ屬ス
 ヘシ

第二十八條

第一節

取引所ノ書記ハ當日前三日間ノ平均相場
 ヲ執リ之ヲ當日ノ建相場トシ毎朝取引所ノ
 塗板ニ書出スヘシ

第二節

相場ハ高直低直平均直取引直ノ四類ニ分チ
 官許ノ新聞紙或ハ他ノ方法ヲ以テ毎日之ヲ
 世上ニ公ユスヘシ

新公債新株式等賣買規則

第二十九條

取引所ニ於テ新公債并新株式ノ賣買ヲ承諾

第二節

スルコトハ臨時ノ事務タルヲ以テ肝煎ハ臨時集會ヲ以テ之ヲ議決スヘシ
 日本政府ヨリ發行スヘキ新公債或ハ地方官廳ヨリ發行スヘキ新債ハ大藏卿或ハ地方官ヨリ其公債ノ全額年限約定利息名稱種類實價等ニ至ルマテ明細ノ布達ヲ得ハ肝煎ハ直ニ臨時集會ヲ以テ其賣買ヲ公ニ承諾スヘシ
 右ノ布達ヲ得ルト雖トモ猶其計算明瞭ニ解シカタキトキハ頭取或ハ肝煎ヨリ幾度ニテ

第三節

モ大藏卿或ハ地方長官ニ對シ細密ニ報告ヲ求ルノ理アルヘシ

第四節

此新債若シ社員或ハ他ノ銀行ノ類ニテ之ヲ引受ケ賣捌ヘキ約定ヲ政府ト結テ之ヲ發行スルトキハ政府ノ布達ト約定書ノ正寫ヲ添テ肝煎ニ申出スヘシ

第五節

此新債ヲ發行スルコト若シ政府ノ急務ニ當テハ公債案内書込證書又ハ月賦入金請取書タリトモ本紙ノ證書同様ニ心得公ニ之ヲ賣買スルコトヲ承諾スヘシ

第一節

第三十條

新設會社ノ株式ヲ賣買セント欲スル社員ハ其趣ヲ書面ニ認メ肝煎ニ差出スベシ

第二節

右ノ書面ニハ左ノ證書類ヲ添テ差出スベシ

一新設會社ノ要件畧記會社創立ノ月日發起人金株數資本金總額入金月賦割分等ヲ見込ノ高ニ達セザルトキノ處

一政府ノ條例或ハ開業免狀ノ寫

一會社定款或ハ申合規則ノ寫

一株手形或ハ抵當證書發行免狀ノ寫

一頭取支配人調印ノ株式帳

一書込濟株數ト書込未濟株數トヲ明細ニ記シタル書面

一得意ノ銀行ニ預ケタル金額

右ノ書類ハ確實ナルコトヲ証スルタメニ其會社ノ頭取支配人一々之ニ調印スヘシ

第三節

肝煎ハ右ノ書面ヲ會議ニ出シテ可否ヲ決シ

愈公ニ賣買スルコトヲ承諾スヘシト決定セ

ハ右株式引受ノ者ヲシテ書面ノ通りニ詐偽

ナキ誓詞ヲ爲サシメテ後ニ何月何日ヨリ公

ニ相場ヲ立テ官許新聞紙ニ之ヲ書載スルコ

トヲ許ス可シ

第三十一條

新設會社ノ目的創立ノ方法ヲ論セス猥リニ其株式ヲ賣買センタメニ社員ヨリ其株式ヲ取引所ニ新入セシメント謀ルコトアリ肝煎ハ是等ノ事ヲ豫テ嚴禁ト爲シ若シ之ヲ謀ル社員アラハ相當ノ處分ヲ爲スベシ
前文ノ弊害ヲ預防センタメニ肝煎ハ新設會社ノ株式賣買ヲ許ス前ニ事宜ニヨリテハ見分ノ者ヲ遣ハシ其工業或ハ商業ヲ検査セシ

第一節

第二節

ムヘシ尤トモ其入費ハ肝煎ノ差圖ニ從ヒ望人ヨリ之ヲ辨フベシ

第三節

新設會社ニ限ラス從前ヨリ株式ヲ公賣スル會社ト雖トモ肝煎ノ衆議ニヨリテハ右ノ検査ヲ遣ハシ實際ヲ目撃セシムルノ權アルヘシ

利益金積立金并ニ俸給規則

第三十二條

銀行ニ預ケタル公債證書ノ利息ハ之ヲ取引所ノ利益金ニ加フヘシ

第一節

此公債證書ハ必シモ同種ノ證書ヲ限ルニア
 ラス若シ抽籤ニ當リ元金ヲ請取ルヘキトキ
 或ハ他ノ事情アルトキハ實額ニテ同高ノ證
 書ヲ出シテ預ケ替ヲ爲スヲ得ヘシ
 毎年六月十二月ノ兩度ニハ半年間取立タ
 ル手數料ノ合高公債證書ノ利息并其餘ノ利
 益ヲ合算シ其内ヨリ營繕修理工業ノ入費稅
 金俸給等ニ至ルマテ取引所ニ關係シタル一
 切ノ費用ヲ引去テ後金ノ殘高ヲ以テ純益ト
 爲スベシ

第二節

第三節

毎年二月一日八月一日ノ兩度ニハ株主等ノ
 總集會ヲ爲シ頭取支配人ヨリ半季商業ノ報
 告ヲ明細ニ爲シ其節純益ヲ株數ニ割合セ夫
 々ニ配當スベシ
 若シ此純益一ケ年一割ノ百分以上ノ利息ニ當
 ルトキハ肝煎ノ集會ヲ以テ割賦高ノ内何分
 額ヲ引去リ取引所ノ積立金ト爲シオクヘシ
 第三十三條
 頭取副頭取肝煎ノ給料ハ株主ノ總集會ニテ
 之ヲ取定ムヘシ

第二節

支配人書記勘定方簿記方手代番人其外ノ給料ハ肝煎ノ衆議ニテ之レヲ取定ムヘシ
税金并報告規則

第三十四條

取引所ヨリ納ムベキ稅額ハ開業後六ヶ月間ノ實際報告ニ據テ之ヲ取極ムベシ

第三十五條

取引所ノ頭取支配人ハ國債頭ニ左ノ報告ヲ出スベシ

第一 取引所實際毎月報告

第一節

第一節

一个月間公債證書株手形抵當證書地券等都テ取引所ニ於テ賣買シタル品ノ合高ト平均相場トヲ記載シテ差出スベシ

第二 取引所實際半ケ年報告

同上ノ趣ヲ記載シ二月一日八月一日マテニ差出スヘシ

第三 同上一ケ年報告

同上ノ趣ヲ記載シ三月一日マテニ差出スヘシ

第四 利益金割賦報告

利益金一株ニ付キ何程ニ當リ積立金并純益割賦高ヲ現ハシ配當ノ日ヨリ十日ノ内ニ差出スベシ

第五 役人株主社員姓名表

姓名宿所商業株數等ヲ記シ四月一日ヨリ十五日ノ内ニ差出スベシ

第六 頭取副頭取肝煎支配人上任報告

新任ノ度ゴトニ其印鑑ヲ添テ差

出スベシ

第三十六條

第一節

取引所毎日出納ノ金額證據金ノ出納取引ノ金高取引品ノ種類并約定高ヲ明瞭ニ簿記シ日報ノ用ニ備フベシ

第二節

凡ソ簿記ハ都テ口分ヲ爲シ極メテ明瞭ニ記シオキ其筋ノ官員并株主等ヨリ望ムトキハ何時ニテモ差支ナク之ヲ示シ明細ニ計算ヲ知ラシムヘシ頭取支配人尤トモ其責ニ任スベシ

達スベシ

罰則

一 贗藥敗藥ヲ販賣スル者ハ五拾圓以內ノ
罰金ヲ課スヘシ

但再犯以上ハ初度ニ倍スル罰金ヲ課

シ尙藥品ノ販賣ヲ禁ス

以上太政官日誌 ○同月二十七日御布告ニ日夕從

來各地方ニ於テ米油限月賣買ヲ許シタレト

モ今般右賣買ヲ止ルニヨリ自今會社ヲ結ヒ

米穀賣買相場取引ヲ爲サント欲スル者ハ本

年十月第百七號布告株式取引條例ノ方法ニ倣
ヒ會社規則ヲ取調ヘ其管轄廳ヲ經テ大藏省
ヘ願出許可ヲ受ヘシ但目今限月賣買ヲ取組
居ル分ハ右限月內取引ハ苦シカラス太政官日誌

大日本貨幣史參考卷十三

大日本貨幣史參考卷十四

賣買部第八

今上

乙亥

明治八年絞油稅則ヲ廢スルコトヲ布告ス○酒
稅規則ヲ改定スルコトヲ布告ス○煙草課稅ノ
コトヲ布告ス○蠶種製造組合條例及蠶種製造
組合會議局規則ヲ定ムルコトヲ布告ス○蠶種
原紙規則第二條第三條第四條改正第五條第九

二
條廢止ノコトヲ布告ス○酒類稅則改定ノコト
ヲ布告ス○絞油稅廢止ノコトヲ布告ス○官吏
商業ヲ營スヘカヲサルコトヲ布告ス○賣買ノ
約定及其他ノ取引約定証書ヲ明確ニスヘキコ
トヲ布告ス○酒類稅則取扱心得書ヲ布達ス○
酒造營業及酒類受賣營業免許鑑札ヲ布達ス○
酒類營業鑑札引替ノコトヲ布達ス○株式取引
及米穀賣買相場取引ヲ爲サントスルモノハ内
務省ニ願出ヘキコトヲ布告ス○酒類稅則取扱
心得書第十二條中釀造元石高ト掲載ノ元字ヲ

三
削除スルコトヲ布達ス○米油限月賣買取引延
期ノコトヲ布告ス○公用土地買上規則ヲ布達
ス○酒類稅則取扱心得書第五條中追加ノコト
ヲ布達ス○煙草稅則ヲ布告ス○官吏商業制禁
布達第一條但書改正ノコトヲ布達ス○米油限
月賣買取引延期期限内取纏メカタキ事情アラ
ハ申立ベキコトヲ布告ス○牛馬賣買免許鑑札
稅煙草稅度量衡稅收入方ヲ布達ス○煙草稅則
第一則第一條中煙草ノマ、云々ヲ除キ同則第
八條但書改正ノコトヲ布告ス○商船生糸牛馬

賣買鑑札規則追加ノコトヲ布告ス○製造煙草
 印紙ノコトヲ布告ス○煙草稅則第二則中第四
 條及煙草印紙貼用方畧圖改正ノコトヲ布告ス
 是歲三月二十日御布告ニ日夕明治四年九月
 布告絞油稅則ハ明治七年十二月三十一日限
 リ廢止ス太政官日誌○同月同日御布告ニ日夕明
 治四年七月布告酒造取締并ニ稅則及ヒ追々
 增補等ノ條トモ本年九月三十日限り廢止シ
 更ニ酒稅規則ヲ別冊ノ通り定メ本年十月一
 日ヨリ施行スヘシ

但濁酒醬油醬麴ノ稅ハ本文同日ヨリ廢止
 ス

酒類稅則

第一則營業稅 釀造稅

第一條

一 清酒味淋燒酎白酒銘酒米雜穀果實何品ニ
 限ラズ釀造シ又ハ
 蒸溜モノテ一切酒造營業又ハ請賣他ヨリ受
 ナスモシテ營業ヲ望ム者ハ其管轄廳へ申立免許鑑札
 ヲ受ケ一期ノ營業稅トシテ一期毎ニ左ノ
 通り上納スヘシ

酒造營業稅

壹種ニ付 金拾圓

酒類請賣營業稅

金五圓

但營業免許ノ期限ハ其年十月一日ヨリ
翌年九月三十日マテヲ以テ一期ト定ム
ルニヨリ右一期中何月ニ新規營業スル
モ營業免許ノ節其一期分ノ全額ヲ直ニ
納稅スヘシ

第二條

一 酒造營業ノ者ハ酒類賣捌代價十分ノ一
壹金拾圓ニ付 釀造稅トシテ年々上納スヘシ

但價額ハ前年十月一日ヨリ其年六月三
十日マテノ平均相場ヲ以テ管轄廳ニ於
テ定ムヘシ

第三條

一 釀造稅納期ハ毎年四月三十日限リ凡半方
前年平均相場比 管轄廳へ上納殘金ハ七月
例ヲ以テ定ム
ニ 至リ平均相場確定ノ後上納九月三十日
限リ管轄廳へ皆濟スヘシ

第四條

一 酒造營業ノ者ハ其一期造高見込ノ石數每

年十月中管轄廳へ届出ヘシ

但營業初年ハ免許鑑札ヲ受ル節直ニ其

一期中造高見込ノ石數届出ヘシ

第五條

一請賣營業ノ者ハ酒類請賣所ト書タル看板

へ免許鑑札ノ番號ヲモ書加ヘ戶外ニ掲ク

ヘシ

第二則 鑑札検査 醸造検査

第一條

一免許鑑札ハ毎年十月中管轄廳ニ於テ検査

ヲ遂ケ其一期免許済ノ証トシテ鑑札裏面
ニ千支ノ印ヲ押シ渡スヘシ管轄廳ヨリ達
次第鑑札ヲ差出シ検査ヲ受ケ營業稅ヲ上
納スヘシ

但廢業ノ者ハ其節鑑札ヲ返納スヘシ

第二條

一免許鑑札若シ水火盜難等ニテ失却ノ節ハ
其旨管轄廳へ届出新規鑑札ヲ申受ヘシ
但手數料トシテ金二十拾錢ヲ納ムヘシ

第三條

一 免許鑑札ハ貸借ヲ許サス

但免許鑑札賣買讓與又ハ改名代替轉居等ノ節其旨管轄廳ヘ申立ルトキハ鑑札ヲ引換渡スヘシ尤前條手數料金ニ拾錢ヲ納ムヘシ

第四條

一 酒類十石以上釀造高檢査トシ時宜見計ヒ管轄廳主任ノ官員巡視スヘシ檢査前ハ一切賣捌ヲ許サス

但釀造高拾石以下并ニ拾石以上タリト

モ季節ニ拘ハラス釀造蒸溜ノ酒類ハ官員巡視ヲ待ニ及ハス區戶長ニ於テ精覈檢査ヲ遂ケ其時々石數ヲ届ル上ハ賣捌苦シカラス

第五條

一 釀造稅管轄廳ヘ上納皆濟期限以前非常ノ災害或ハ腐敗等アル節ハ其旨直ニ管轄廳ヘ届出主任ノ官員檢査ノ上他ノ品類ニ變製シ販賣スル者ハ其賣代價拾分ノ壹ヲ上納シ全ク廢棄ニ至ル者ハ其石數ニ係ル釀

造税上納ニ及ハス

但検査済ノ腐敗酒ヲ以テ有税ノ酒類ニ
變製スルトモ其酒類ニ屬スル營業税ハ
別段上納ニ及ハス

第六條

一若シ非常ノ災害或ハ腐敗等アリ其節届出
テスシテ検査ヲ受ケサルモノハ既ニ届ケ
出テタル石數ヲモツテ釀造税ヲ上納スヘ
シ

第三則 賞罰例

第一條

一免許鑑札ヲ受ケス密造營業致シタル者ハ
其酒類ハ勿論器械共取上ケ壹石ニ付金七
拾五錢ノ割ヲ以テ科料ヲ申付ヘシ
但密造酒類既ニ賣捌クトキハ其代金取
上クヘシ

第二條

一免許鑑札借受酒造營業シタル者ハ前條密
造同様處分シ貸渡シタル者ハ一期營業税
五倍ノ科料ヲ申付ヘシ

第三條

一 釀造高検査ヲ受ケス又ハ検査ノ際釀造高
ヲ隠蔽シ賣捌ク者ハ其賣代金ヲ取上ケ密
造同様ノ科料ヲ申付ヘシ

第四條

一 免許鑑札ヲ受ケス請賣營業シタル者ハ一
期營業稅五倍ノ科料ヲ申付ヘシ

第五條

一 免許鑑札ヲ借受ケ請賣營業シタル者ハ前
條同様ノ科料ヲ申付ケ貸渡シタル者ハ一

期營業稅ノ三倍科料ヲ申付ヘシ

第六條

一 區戸長ニ於テ検査ノ節不正ノ取計シタル
歟或ハ不正ノ情ヲ知り見道シタルニ於テ
ハ律ニ照シ處分スヘシ

第七條

一 前條々ニ掲ケタル處ノ犯則人ヲ見届訴出
ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於
テハ其賞トシテ科料金并ニ取上品拂高金
十圓ニ付キ壹圓宛下サルヘシ

以上日誌太政官 ○同月同日御布告ニ日夕煙草ハ
來ル明治九年一月一日ヨリ課税スヘシ

但税則ハ追テ布告スヘシ

以上日誌太政官 ○同月二十二日御布告ニ日夕蠶
種製造組合條例并蠶種製造組合會議局規則
トモ別冊ノ通り定ムルニヨリ本年ヨリ施行
スヘシ

但明治六年四月布告蠶種取締ハ廢止ス

蠶種製造組合條例

第一條 製種人組合
結立手續

第一節

蠶種ヲ製造セントスルニハ其地ノ便宜ニ應
シ組合ヲ立ヘシ即チ其人數ハ必貳拾五人以
上タルヘシ

第二節

蠶種ヲ製造スルハ養桑相當ニ充備シ原種壹
枚部以上ヲ養育スル者ニ非レハ組合ニ入レ
蠶種ヲ製造スルコトヲ許サス

第三節

此組合ヲ立ル者共連署シテ組合結立ノ願書
ヲ其區戶長ノ奥印ヲ受ケ管轄ノ廳ヘ差出ス
ヘシ

但土地ノ便宜ニヨリ他管下交錯スルモ妨

第四節

地方官ハ其願書ヲ檢シ不都合ナキニ於テハ
組合結立ノ證書并定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條

頭取并以下役員撰舉及
定款等差出方ノ手續

組合ノ者共ハ管轄廳ノ命ヲ受テ後一同協議
ヲ盡シ投票又ハ便宜ノ方法ヲ以テ頭取及ヒ
檢査人等ヲ撰任シ組合結立ノ證書并定款ヲ
其廳ニ差出スヘシ

但組合中隣保ノ便宜ヲ謀リ適宜ニ戶數ヲ
區分シ其區分中ニ於テ一名ツ、世話役ヲ

第三節

第二節

撰任スヘシ尤トモ頭取ヲ始メ役員ノ多寡
ハ組合人員ニ應シ便宜ニ任スヘシ
組合結立證書ニ掲載スヘキ要件ハ

第一 組合ノ名號并取扱所ノ地名

但其組號ハ諸省寮司府縣等ノ稱
號ニ混セサル名稱ヲ附スヘシ且
其號ハ管轄廳ノ承認ヲ得テ後公
唱スヘシ

一 取扱所ハ組内ノ便宜ニ依リ更ニ
之ヲ設立セス組内ノ者居宅ヲ以

第三節

テ假ニ取扱所ト定ムルモ妨ナシ

第二 組合中ノ者姓名并住所

第三 組内各自所有ノ桑園及ヒ小作受桑園ノ步數并買入約定ノ分共桑枝ノ束數桑葉ノ貫數地主賣主ノ姓名等

第四 掃立原種ノ枚數

第五 身元積立金ノ額或ハ有無

第六 此條例ヲ遵守シ蠶種ヲ製造スヘキノ旨

右ノ證書ハ組合ノ者一同記名調印シテ其區

第四節

戸長ノ奥印ヲ乞ヒ管轄廳ニ差出スヘシ

組合ノ定款ハ結立ノ要領ヲ記載シ尙組内申合ノ規則ヲモ調整シ一同記名調印シテ管轄廳ニ差出スヘシ

管轄廳ニ於テハ右願書并證書定款申合規則トモ一同之ヲ内務省ニ出スヘシ

第五節

但組合結立ノ證書定款申合規則共各正副

二通ヲ出シ内務卿ノ承認ヲ得テ後地方官

奥書鈐印シテ之ヲ其組合ヘ下付スヘシ

第三條 組合ノ制限ノ順序等 任

第一節

組合頭取及ヒ検査人等ノ印信并組印等ハ其印影各二枚ヲ管轄廳へ出シ内一枚ヲ其廳ヨリ内務省へ出スヘシ

第二節

頭取検査人等ハ原種二枚部以上ヲ養育シ且蠶業熟練ノ者ヲ以テ充ツヘシ

第三節

頭取検査人等ハ上任ノ節ニ誓詞ヲ爲シ事務ニ於テ忠正確實公平ヲ旨トシ且條例規則等ニ聊カモ悖戾セサル旨ヲ認メ正副二通ヲ管轄廳へ出シ其廳ヨリ一通ヲ内務省へ出スヘシ

第四節

頭取及ヒ以下役員撰任交代ノ手續且組合ノ事務上ニ於テ權任ノ制限等ハ定款ト申合規則トニ掲載シ置クヘシ

第五節

組合營業上ノ事務ニ付テノ諸願届又ハ證書約定書及ヒ往復ノ文書等マテ其組ノ號ヲ用ヒ組印ヲ押スヘシ

但諸願届又ハ證書類等ハ頭取検査人等ノ名印ヲモ加フヘシ

第六節

組合中集議ヲ以テ論定スヘキ件ハ結句同論ノ多キ方ニ從テ確定スヘシ

第七節

第六節

此組合中ノ者ハ轉業又ハ他ヘ移住等ノ外ハ自己ノ都合ヲ以テ猥ニ其組合ヲ脫スヘカラス

但事故ヲ以テ其組ヲ脫セシムルヲ欲スル

者ハ組内集議ノ上之ヲ脫セシメ其旨ヲ管

轄廳ヘ届出シ

聯合第四條ハ蠶種製造

組合申製造ノ蠶種ハ原種一枚ニ付キ製種五

拾枚ノ目度下

但成繭検査ノ上長繭少キ者ハ之ヲ減シ

第一節

第四節

第四節

第二節

第三節

第一節

第二節

ハ長繭多キ者ハ之ヲ増シ組内限り原紙ヲ流用スルニ此限ニテハ蠶種製造ノ額ハ内外供用ノ適度ヲ立ルヲ要ス故テ組合申製造ノ額ヲ定メ或之ヲ増減スルハ各組合頭取集會以協議ヲ委スヘシ

第五條 蠶種原紙願受ノ期及買受方ノ手續

組内ニテ製造スル蠶種ハ原紙ヲ桑園并掃立原種ノ數ニ自用販賣用ノ目途ニ應ジ其確實ナル者員數ヲ區別詳記シ組合中凡積ノ總額製種人員取調帳簿ヲ製シ頭取并以下役員

第二節

記名調印シ組内明細表ヲ添へ前年ノ十二月
限リ管轄廳へ出スヘシ
管轄廳ニ於テハ之ヲ其翌月中迄ニ管内各組
ノ分ヲ纏メ合計調帳ヲ添へ内務省へ差出ス
スシ

第三節

右凡積製種ノ額届方ハ期月ニ後ルヘカラス
若シ期日ニ後ル、トキハ原紙漉立ノ數ニ加
ヘサルヘシ

第四節

原紙買請方ノ手續等ハ蠶種原紙規則ニ遵フ
ヘシ

第一節

第六條 蠶種原紙組内
配賦ノ手續

此組合ニ於テ買受ノ原紙ハ其組内一様ニ中
書認入組號ノ印ヲ押シ毎戸へ分賦スヘシ
製糸人等自用ノ蠶種ト雖モ都テ前節同様タ
ルヘシ

第三節

製糸人等自用種ノ分、原紙一枚以下ノ製造ヲ
欲スル者へハ半截又ハ四截シテ配賦スルモ
妨ナシ

第四節

然レトモ品質検査等ハ全紙へ製造ノ分モ同
様タルヘシ

第五節

第六節

第七節

但中書并組印等ハ全紙ノ儘ニテ認加ヘ之レ
 各組事務取扱所へ原紙買受配賦ノ手数料ト
 於テ原紙元價四分一ヲ給與スル
 組合事務取扱所ニ於テ原紙配賦ニ付テ
 手数料等製種人ヨリ一切乞フヘカラス
 第七條 蠶種精撰
 成繭製種ノ期ニ至ラハ検査人世話役兩人以
 上ニテ組内毎戸繭ノ品質蛾ノ強弱等ヲ實檢
 親試シ良繭ヲ撰ニ其生繭ノ數ト蛾ノ歩方ニ

第二節

應シ製種ノ枚數ヲ概定シ各自凡積ノ額ニ照
 考シ原紙ヲ配與スル
 但検査ノ上良質ノ生繭ニアラサル分ハ製
 種ヲ止ムヘシ
 組内蠶種出來揚ノ上ハ每區世話役ニテ取集
 メ取扱所へ差出シ蠶種紙毎壹枚検査人ニ於
 テ檢閱シ精良ノ蠶種紙ハ検査ノ證印ヲ捺
 スヘシ若シ検査人ニ於テ粗惡品ト認メシ分
 ハ更ニ頭取検査人一同ノ公評ヲ以テ之ヲ鑒
 別シ其蠶種紙ハ管轄廳へ差出シ處分ヲ受ク

ヘシ

但検査ノ際ニ當テハ製種人ニ於テ蠶種ノ精粗ヲ評論スヘカラス且検査ノ當日ハ豫メ管轄廳ヘ届ケ出ベシ時宜ニ依リ地方官員又ハ勸業寮官員巡視スル事アルヘシ頭取検査人ノ公評ヲ以テ粗惡濫造品ト鑒定シ差出セシ蠶種ハ管轄廳ニ於テ更ニ検査ノ上粗惡濫造ノ分ハ直ニ之ヲ焼却シ其枚數組號及製造人姓名等ヲ詳記シ内務省ヘ届出ヘシ

第三節

第四節

蠶種検査相濟次第現在出來高帳取調管轄廳ヘ差出シ印紙受取方ヲ申立ヘシ

但夏蠶掛合セ風穴種等製造方運延ノ分ハ取揚次第其種類ヲ區別シ現在出來高帳取調ヘ差出シ印紙受取方ヲ申立ヘシ

第五節

右現在出來高調帳ヲ各組ヨリ差出次第取纏メ管轄廳ヨリ内務省ヘ差出スヘシ

第八條 印紙願受手續

第一節

蠶種印紙ハ製種凡積ノ額ニ照合シ大藏省ニ於テ製造ノ上其年七月中ニ各地方官ヘ渡シ

第一節

第二節

第三節

第四節

置へば、
 但印紙雛形、
 地方官ニ於テ各地ノ組合頭取ヨリ其年蠶種
 紙ヲ現在出來高帳差出次第其額ニ照シ印紙
 稅收入以上印紙ヲ下分渡スルニ由ルモノ
 蠶種印紙稅ハ春蠶并夏蠶掛合セ風穴種等ノ
 區別ヲテ都テ左ノ通り收入スルニ由ルモノ
 全紙ニ貼用シ分
 淡墨印紙壹枚ニ付金拾錢
 分截紙貼用シ分

第一節

第二節

第三節

第四節

黄十印紙壹枚ニ付金貳錢五厘
 但半截ニ分ヘハ貳枚四截ノ分ヘハ壹
 枚ニ付金拾錢
 蠶種印紙下テ渡殘ハ現在渡高仕譯書ヲ添ヘ
 官ヨリ大藏省ヘ納ムヘシ
 第九條印紙貼付
 組合頭取ニ於テ蠶種印紙ヲ管轄廳ヨリ受取
 上ハ組内製造ノ蠶種紙ヲ取扱所ヘ取集メ

第二節

每紙ニ位置雛形ノ如ク裏面ヘ印紙ヲ貼付シ
 頭取之ニ繼印スヘシ
 但頭取ハ検査人ノ檢印ヲ証トシ印紙貼付
 ノ繼印ヲナスヘシト雖モ若シ不正ノ蠶種
 アルトキハ第七條第二節ニ照準スヘシ
 頭取製造ノ蠶種印紙繼印ハ検査人ノ内ニテ
 押印スヘシ
 印紙貼付ノ節贏餘原紙ハ取集置キ都テ原紙
 規則ニ照準處分スヘシ

第十條

組合結立ノ後新
 規加入ノ手續

第三節

第一節

組合結立ノ後其組ヘ加入ヲ乞フ者アラハ頭
 取ニ於テ速ニ之ヲ承諾シ其者所有ノ桑園其
 外トモ第二條第二節ノ如キ證書ヲ取置キ組
 合中ヘ告知シ其旨ヲ管轄廳ヘ申立ヘシ
 但組合結立ノ後加入ヲ乞フ者アルトキ既
 ニ凡積製種高届書ヲ差出セシ後ノ加入人
 ハ其年ノ製種ヲ許サス翌年ヨリ製造スヘ
 シ

第二節

組合結立ノ後加入セシ姓名等ハ其時々管轄
 廳ヨリ内務省ヘ届出ヘシ

第二節

第十一條 蠶種製造

此組合之者ハ他ノ組或ハ他ノ養蠶人製造ノ繭ヲ買入レ蠶種ヲ製造スヘカラス

但蠶種製造人ハ本組内家ヲトモ生繭ヲ賣

渡スルガヲスル者ハ本組内家トシテ買入

第二節

印紙貼付セサル蠶種紙ヲ賣買スヘカラス

第三節

春蠶ノ原紙ハ夏蠶掛合等風穴種等仕付又ハ

夏蠶其外ノ原紙ハ異質以蠶種ヲ仕付又或ハ

原紙規則外ノ紙ハ蠶種ヲ製造スルカラス

第四節

餘附再出ノ製造糸薄附粗斑ノ分谷粘付補裝

第五節

等總テ詐偽濫造ハ一切嚴禁タルヘシ

他組合ノ者製造ノ蠶種紙ハ該組製造ノ證印

ヲ押シ又ハ該組製造ノ品ハ他ノ組號ノ證印

ヲ借受捺スル等都テ嚴禁タルヘシ

第六節

組内ノ者ト雖モ異質ノ蠶ヲ養育シ成繭ノ後

一家へ集合シ蠶種ヲ製造スヘカラス

第八節

蠶但組内同質ノ原種掃立養蠶成繭ノ後數戸

以集合シ又ハ組内ニ舍ニ於テ養蠶ノ上蠶種

紙製造等組號印ノ證ヲ捺スル分ハ此限ニ

第九節

坐向等々ハ以前ニ嚴禁ヲ賦置スヘカラス

第七節

生繭検査ノ以前ニ蠶種ヲ製造スヘカラス且
検査人ニ於テ惡質ト認メ製種ヲ止メシ繭ヲ
以テ製造スヘカラス

第八節

蠶尿紙へ産卵アルトモ自用并賣買等ヲ許サ
ス

第九節

右ノ條件ヲ犯スモノハ罰例ニ從テ處分スベ
シ

第十二條

濫造等違犯ノ者罰例及ヒ
検査人處務上ノ罰例等

第一節

此條例第十一條ノ第一節及ヒ第四節第五節
第六節第七節ヲ犯スモノハ其製造ノ蠶種紙

第二節

ヲ取上ケ壹枚ニ付キ金五十錢ノ科料ヲ申付
ヘシ若シ既ニ賣買スルトキハ買受人ヨリ其
品ヲ取上ケ賣渡人ヨリ代金追償申付ヘシ
但買受人情ヲ知ル者ハ賣渡人ト同罪タル
可シ

同條第二節ヲ犯シ賣渡ス者ハ其代金ヲ取上
ケ買受者ハ其品ヲ取上ケ雙方トモ印紙税十
倍宛ノ科料ヲ申付ヘシ

第三節

同條第三節ヲ犯ス者ハ製造ノ蠶種紙ヲ取上
ケ原紙料十倍ノ科料ヲ申付ヘシ若シ既ニ買

第四節

買スル時ハ買受人ヨリ其品賣渡人ヨリ賣代
金ヲ取上雙方共同様ノ科料ヲ申付ヘシ
同條第八節ヲ犯シ賣渡ス者ハ其代金ヲ取上
ケ買受者ハ其品ヲ取上ケ雙方トモ金五圓ヨ
リ多カラサル罰金ヲ申付ヘシ
頭取検査人等規則ヲ犯スニ於テハ總テ本科
壹倍ノ科料ヲ申付ヘシ
若シ違犯ノ廉重複シ俱ニ發覺スルトキハ逐
條科料金ヲ追徴スヘシ

第六節

但此條例中禁令ノミニテ罰例ヲ掲ケサル

第七節

モノハ其罪ノ輕重ニ從テ金五圓ヨリ多カ
ラサル罰金ヲ申付ヘシ
組合中ノ者詐偽濫造等不正ノ所業アルヲ頭
取及ヒ検査人ニテ不心附等閑ニ打過他ヨリ
顯ル、ニ於テハ頭取検査人ハ其犯科ノ輕重
ニヨリ金五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ申付
ケ犯人ハ本科ニ處スヘシ若シ又頭取検査人
等組内ニ黨與シテ不正ヲ謀ルニ於テハ犯人
ハ夫々本科ニ依リ處分シ頭取検査人ハ二百
圓ヨリ多カラサル罰金ヲ申付ヘシ

第八節

頭取検査人若シ處務上ニ於テ非分ノ所業アルトキハ貳百五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ申付ヘシ事若シ本律ニ渉ル者ハ律例ニ照シ處斷スヘシ

第九節

各組合ノ者犯則ノ所業アルヲ他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ事實取糺シノ上其品ニ依リ取上ケ科料金ノ十分一ヲ其訴主ヘ給與スヘシ
取上ケノ蠶種精良ノ品ハ取上品ノ證印ヲ押シ公ノ入札ヲ以テ拂下クヘシ尤トモ規則外

第十節

ノ原紙ヘ製造ノ分又ハ粗惡ノ種類ハ燒却スヘシ

第十一節

諸種ノ科料金取立及ヒ取上品入札拂等ハ其地ノ裁判所ニテ處分シ裁判所ナキ場所ハ地方官ニ於テ處分スヘシ

第十三條 此條例ニ依リ別段ヲ免許ヲ以テ蠶種ヲ製造スルヲ得ヘキコト

第一節

蠶種ヲ製造スルモノ僅少ノ地方等ニテ此條例ノ組合立カタキ場所ハ少クトモ七人以上タルトキハ其組合結立ヲ願出ルヲ得ヘシ

第二節

地方官ハ其事情ヲ詳明ニシ之ヲ内務省へ伺出許可ヲ得テ後都テ此條例ニ遵テ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三節

製絲家等ニテ全ク自用種ノミ製造ヲ欲スルトキハ最寄蠶種製造組合取扱所ニ附屬シ原紙買受製造スルハ苦カラス尤印紙貼用等都テ此條例ノ第八條及ヒ第九條ノ趣旨ニ遵フヘシ且組合取扱所ニ於テハ原紙并印紙受與等組内ト見做シ處分スヘシ

但最寄地方蠶種製造組合ナキ場所ニ於テ

第一節

製絲家ノミ自用ノ蠶種製造ヲ欲スルトキハ前節ニ遵テ更ニ内務省へ伺出ヘシ

第十四條 蠶種製造組合ノ旨趣

此組合ハ蠶種製造ヲ以テ專業トスルモノナレハ各地方共互ニ協同通知シ或ハ頭取検査人等他組合ノ實際ヲ巡視シ又ハ集會熟議ノ上勉テ精製ノ術ヲ講究シ廣ク内外供用ノ適度ヲ商ルヲ要ス

第二節

此組合條例ヲ遵守シ創立シタル各地方ノ組合頭取等前條ノ旨趣ニ依リ公議決定セシ條

件ハ組合中ノ者ニ於テ素ヨリ私議スヘカラ
 ス以下圖ア
 以上布告〇三月三十一日御布告ニ曰ク明治
 七年第十九號布告蠶種原紙規則第二條第三
 條第四條左ノ通改正及ヒ第五條第九條ハ廢
 止ス

蠶種原紙規則

第二條

一賣渡方ハ毎年四月一日ヨリ五月三十一日
 迄ヲ限ルニヨリ各地方管轄限リ取纏メ蠶

種製造人總代ノ者其管轄廳ノ添簡ヲ以テ
 最寄賣捌所へ申立右日限ノ内ニ必買受ク
 ヘシ

第三條

一買受方ハ春蠶及夏蠶掛合等ノ種類區分ヲ
 立テ總數ヲ取調へ製造人人員調書共添テ
 申立ヘシ

但原紙直段ハ春蠶ニ用ル厚紙ハ千枚ニ
 付キ金五拾圓夏蠶其外ニ用ル薄紙ノ分
 ハ同斷ニ付キ拾五圓ト定ムルニヨリ原

紙受取ノ節即時上納スヘシ

第四條

一 蠶種出來上リノ節原紙贏餘アラハ其地方
 管轄限リ取纏メ其年九月十五日迄ニ其管
 轄廳ノ添簡ヲ以テ最寄賣捌所へ差出シ代
 價下戻ヲ願フヘシ其儘捨置キ更ニ翌年ノ
 用ニ供スルヲ許サス萬一違犯ノ者アルニ
 於テハ其品ヲ取上ケ原價二倍ノ科料ヲ取
 立ヘシ

以上布告類編告 ○四月十二日御布告ニ曰ク本年第

廿六號布告酒類稅則中左ノ通改定ス
 酒類稅則

第三則 賞罰例

第二條

一 免許鑑札ヲ借受ケ酒造營業スル者ハ前條
 密造同様處分シ貸渡者ハ鑑札ヲ取揚ケ借
 受者ト同様ノ科料ヲ申付ヘシ

第五條

一 免許鑑札ヲ借受ケ請賣營業スル者ハ前條
 同様ノ科料ヲ申付貸渡者ハ鑑札ヲ取揚ケ

借受者ト同様ノ科料ヲ申付ヘシ
 以上布告類編 ○同月同日御布告ニ曰ク明治七年
 十二月三十一日限り絞油稅ヲ廢サル、ニヨ
 リ豫人共ヘ渡シタル鑑札ハ取纏メ豫備ノ分
 トモ各廳ニ於テ燒捨テ其段ヲ届出ヘシ
 以上大藏省布達全書 ○同月二十三日御達書ニ曰ク
 官吏商賈ノ營業ヲ爲ス可ラサルハ勿論ナレ
 トモ其區分判然タラサルニヨリ自今左ノ通
 定メラレタリ

但從前ノ指令之ニ抵觸スルモノハ廢止ト

心得ヘシ

第一條

一凡ソ官吏タルモノ并ニ其家族トモ他ノ物
 品ヲ買入レ之ヲ餘人ニ賣リ以テ利ヲ獲ル
 モノ或ハ他ノ生産ヲ買入レ製作ヲ加ヘ之
 ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ業ハ一切禁止ス
 但區戸長郵便取扱人學區取締役及等外
 吏ノ分ハ此限ニアラス

第二條

一官吏ノ家族自己ノ財ヲ以テ商賈ノ業ヲ營

マシト欲スル者ハ分籍別居ノ上ニテ營ム
ヘシ

第三條

- 一 左ノ數件ハ商賈ノ業ニアラサルニヨリ官
吏タル者ト雖トモ制禁ニアラス
- 但商賈同様ノ店ヲ開クヲ許サス
- 一 礦山田地ヲ所有シ其利ヲ獲ル事
- 一 田地家屋ヲ貸シテ地代宿賃ヲ獲ル事
- 一 金銀ヲ貸シテ利息ヲ獲ル事
- 一 所有地ヨリ生スル物産ニ製作ヲ加ヘ賣

拂フ事

以上布類編告 ○五月十八日御布告ニ日ク諸品賣
買取引心得方定書ハ去ル明治四年九月布告
ニ及ヒタレトモ自今廢止ス尤トモ向後賣買
ノ約定ハ勿論其他諸取引ノ約定ヲ爲スノ証
書ニハ成ルヘキ丈ケ其約定ノ趣意ヲ明確ニ
書キ載セ疎漏曖昧ナキヤウ注意スヘシ布類編告
○同月二十九日大藏省布達ニ日ク酒類稅御
布告ニ付キ別紙取扱心得書ヲ達スルニヨリ
各府縣區々ニオラサルヤウ取計フヘシ

酒類稅則取扱心得書

第一條

一酒造營業免許鑑札及酒類請賣營業免許鑑札ハ凡積ヲ以テ租稅寮へ受取方ヲ申出ヘシ

第二條

一酒造營業稅ハ其釀造セル種類ニ應シ壹種毎ニ金拾圓宛ノ營業稅ヲ課シ請賣營業稅ハ壹家幾種類ヲ請賣ルトモ金五圓ヲ課シ何レモ年々收稅スヘシ

第三條

一酒造營業ノ者ハ酒類賣捌代價ノ拾分ノ壹ヲ釀造稅トシテ年々上納スル成規ナレトモ葡萄酒及麥酒ルビールポ類ニ限り右釀造稅ノ分ハ追テ達スルマテ當分免除ノ積リ取計フヘシ尤トモ營業稅ハ成規ノ通り收入スヘシ

第四條

一酒類請賣ハ内外國産ニ拘ハラス一切他ヨリ買取賣捌營業スル者へハ假令他ノ業體

ヲ兼ルトモ總テ受賣免許鑑札ヲ渡スヘシ
但藥店ニ於テ藥用ノ爲メ賣買シ及ヒ飲
食店ニ於テ用ル分ハ此限ニ非ス

第五條

一 釀造稅收入ニ用フル酒價ノ平均ハ土地ノ
景況ニ寄り酒價高低ノ類別ヲ以テ豫テ管
内ヲ貳部或ハ三部ト適宜ニ組合ヲ定置キ
新酒古酒ヲ問ハス甲年十月一日ヨリ乙年
六月三十日迄賣却スル所ノ上酒眞價ヲ以
テ月々相場書ヲ出サセ一組毎ニ平均シ一

期釀造稅收入ニ用ル相場ヲ定メ酒造人ニ
達スヘシ且右平均相場ハ八月三十一日限
リ租稅寮ヘ届出ヘシ

但月々差出ス所ノ相場書若シ其當ヲ得
サルモノアレハ賣買仕切書ヲ臨時檢査
シテ其價額ヲ定ムヘシ

第六條

一 酒造桶類即今所持ノ分ハ勿論自今新調及
輪換減縮等ノ分トモ届出サセ主任ノ官員
巡廻調査シテ其側面ニ左ノ件々ヲ掲載ス

ヘシ

一番號

二口徑何程

三底徑何程

四深サ何程

但ニ地震用ヲ減ス為メ

五石數何程

六調査ノ年號月日

七調査人官姓名

八縣廳燒印

第七條

一 毎年釀造高検査ノトキハ每桶掲載ノ石數

ヲ以テ總石數ヲ定ムヘシ

第八條

一 蒸溜酒類ニ用ル瓶類ハ第六條ニ準シ調査

方實際適宜ヲ以テ取極ムヘシ

第九條

一 桶類ノ石數ニ充タサル減石ヲ造込シ分ハ

其現實石數ヲ豫メ酒造人ニ申立サセ尙實

際ニ於テ検査ヲ遂クヘシ

第十條

一 營業稅ハ十月三十一日限り各廳へ收入十
 一月三十日限り租稅寮へ納メ手数料ハ鑑
 札書換引替ノ都度取立テ翌月月未限り租
 稅寮へ納ムヘシ

第十一條

一 釀造稅ハ規則ノ通り凡半方四月三十日限
 リ收入五月三十一日限り租稅寮へ納メ殘
 金ハ九月三十日限收入十月三十一日限租
 稅寮へ納ムヘシ

第十二條

一 酒類酒造諸稅帳ハ十一月三十日限り酒類
 營業人員及釀造元石高帳ハ十二月廿五日
 限り租稅寮へ差出スヘシ

但一旦届濟ノ石高増減アル分及右期限
 後新規免許スル者ノ釀造元石高ハ其時
 々届出ヘシ

第十三條

一 免許鑑札ヲ檢査シ營業稅取立ノトキ用ル
 干支ノ印ハ 乙亥收稅 圖ノ各廳ニ於テ彫刻シ
 用ユヘシ

第十四條

一 免許鑑札毎年検査ヲ遂ケ其年々相當セル
干支ノ印ハ裏面へ押印シ餘白盡キタル上
ハ更ニ新鑑札ヲ引換渡スヘシ尤トモ手數
料ヲ取立ルニ及ハス

第十五條

一 酒類醸造請賣免許鑑札元拂計算帳ハ十一月三
十日限租税寮へ差出スヘシ
但廢業及引換ノ舊鑑札ハ甲年十月ヨリ
乙年九月迄ノ分ヲ取纏メ租税寮へ返納

スベシ

以上大藏省布達全書 ○六月十四日大藏省布達ニ曰
ク本年二月公布酒類税則中ニ記載ノ酒造營
業及酒類受賣營業免許鑑札ハ別紙ノ通りナ
リ別紙ハ零ス○大藏省布達全書 ○同月二十九日大藏省布
達ニ曰ク本年二月酒造取締并税則ヲ廢サレ
更ニ酒税規則公布ニ付テハ舊規則ニ因リ是
迄酒造營業人へ渡シタル鑑札ハ來ル十月中
酒造營業税收入ノ節本年六月當省達書雛形
ノ營業免許鑑札ヲ以テ悉皆引換渡スヘシ尤

トモ引揚ケノ舊鑑札ハ各府縣廳ニ於テ燒却
 シ番號枚數届出ヘシ大藏省布 ○七月十四日
 御布告ニ曰ク明治七年十月第十七號ヲ以テ株
 式取引及ヒ同年十月第二十三號ヲ以テ米
 穀賣買相場取引等ヲ爲サント欲スル者ハ其
 管轄廳ヲ經テ大藏省ヘ願出ベシト布告シタ
 レトモ自今右ノ手續ヲ以テ内務省ヘ願出ヘ
 シ
 但株式取引條例中第二拾九條ヲ除クノ外
 大藏卿トアルハ内務卿國債頭トアルハ勸

業頭ト心得ヘシ

以上布告類編 ○同月十九日大藏省布達ニ曰ク本
 年當省ヨリ達シタル酒類稅則取扱心得書第
 十二條中釀造元石高ト掲載アル「元」字ハ削除
 スルニヨリ元石高申立ニ及ハス製酒ノ石數
 見込ヲ申立シムルコト、心得ヘシ大藏省布
 ○同月二十三日御布告ニ曰ク米油限月賣買
 ヲ停ムル旨、明治七年十二月布告ノ後本年四
 月更ニ當七月三十一日限り取引延期ノコト
 ヲ布告シタレトモ尙ホ詮議ノ次第アリ來ル

十一月三十日限り延期セシム布告類編 ○同月二十八日御達ニ曰ク公用土地買上規則ハ別紙ノ通り定ム

公用土地買上規則

第一則

公用土地買上トハ國郡村市ノ保護便益ニ供スルタメ院省使廳府縣ニ於テ人民所有ノ土地ヲ買上ルヲ云フ

但國郡村市ノ保護便益ニ供スル爲メ人民ニテ鐵道電線上水等ノ大土工ヲ起ス時ハ

其事業ニヨリ特別官許ノ上此規則ニ準スルヲ得ヘシ

第二則

公用買上ハ必ス其地ヲ要セサルヲ得サルニアラサレハ之ヲ行ハサルモノトス故ニ人民之ヲ拒ムヲ得ス

但其地ニ屬シタル植物建造物等モ亦本文ニ同シ

第三則

院省使ニテ公用土地買上ヲ要スルトキハ左

ノ事由ヲ内務省ニ照會シ内務省ヨリ地方官
 ニ諮詢シテ差支ナキ旨ノ回答ヲ得タル上該
 廳ヨリ太政官ニ上陳允裁ヲ得ルモノトス
 廳府縣ニテ公用土地買上ヲ要スルトキハ左
 ノ事由ヲ具狀シテ内務省ニ稟請シ内務省ヨ
 リ太政官ニ上陳シ允裁ヲ得ルモノトス
 内務省ニ照會又ハ稟請スヘキ事由左ノ
 如シ

- 一 土地ヲ買上ルノ事由
- 一 該地ヲ必需スルノ事由

某管轄國郡村市

- 一 該地ノ番號
- 一 該地ノ字
- 一 該地ノ地種
- 一 該地ノ地主
- 一 東西何程南北何程
- 一 方種何程

但該地ノ實測圖ヲ添ル者トス實測圖ハ
 近傍ノ地形ヲモ畧記スヘシ

第四則

公用ノタメ買上ル地價ハ券面ニ記シタル代價タルヘシ然レトモ地價相違ヲ生セシ時ハ所有者ト買上ヘキ該廳トノ商議ヲ以テ代價増減アルヘシ

第五則

買上ヘキ土地ニ屬シタル植物建造物等ヲ併セテ買上ルトキハ地價ノ外別ニ植物建造物等ノ代價ヲ渡スヘシ其代價ハ所有者ト買上ヘキ該廳トノ協議タルヘシ

第六則

買上ヘキ土地ニ屬シタル植物建造物等ヲ買上ケサルトキハ地價ノ外別ニ植物建造物等ノ轉移料ヲ渡スヘシ轉移料ハ所有者ト土地ヲ買上タル該廳トノ協議タルヘシ

第七則

土地ヲ買上ヘキ該廳ハ植物建造物等ヲ買上クルコトヲ要セスト雖モ人民植物建造物等ヲ併セテ買上ンコトヲ求ルトキハ第五則ノ通タルヘシ

第八則

土地植物建造物等ノ買上代價及轉移料ノ見込所有者ト該廳ノ間ニ許多ノ差違ヲ生シ熟議ニ至リ難キトキハ雙方ヨリ評價人各一人ヲ出シ地方官之ヲ折衷シテ内務省ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムルモノトス

第九則

地方官土地及ヒ植物建造物等ノ買上ヲ公達シタルトキハ直ニ買上代價ヲ渡スヘシ

第十則

人民買上代價ヲ受取タルトキハ買上ラレタ

ル土地植物建造物等ヲ三十日以内ニ渡スヘシ然レトモ買上前ニ該廳ト別段ノ契約ヲ結ビタルハ特別トス布告類編○九月十二日大藏省布達ニ曰ク本年當省ヨリ達シタル酒類稅則取扱心得書第五條中新酒古酒ノ下ニ「卸賣小賣」ノ四字、三十日マテノ下ニ「酒造家ニ於テ」ノ六字ヲ加フ大藏省布達全書○十月四日御布告ニ曰ク烟草課稅ハ本年二月布告ニ及ヒタレトモ右稅則ハ別紙ノ通り定メ明治九年一月一日ヨリ施行スヘシ

烟草稅則

第一則 業烟草營

第一條

一 烟草賣買營業ノ者ハ其管廳へ申出營業鑑
札ヲ受ケ年々左ノ通り納稅スヘシ
但烟草耕作人ニシテ自作ノ烟草ヲ烟草
賣買營業人へ賣渡スノミ烟草ヲ請賣セ
サル者并葉烟草ノマ、取扱フ者ハ此限
ニアラス

烟草卸賣營業稅 一个年金拾圓

烟草小賣營業稅 一个年金五圓

但卸賣トハ烟草商人へ賣渡スヲイフ
又小賣トハ自用_{自己ノ所用ニ供シ賣}
ノ人へ賣渡スヲイフ

第二條

一 卸賣營業鑑札ヲ受ケ小賣ヲ兼ルモノハ別
段小賣營業鑑札ヲ願受ルニ及ハスト雖ト
モ小賣營業鑑札ヲ受ケ卸賣ヲ兼ルヲ許サ
ス

第三條

一 最初營業鑑札ヲ下渡ストキ手數料トシテ
金貳十錢ヲ納ムヘシ

第四條

一 營業鑑札ヲ受ケタル烟草商人ヘハ仕入鑑
札ヲ其管廳ヨリ渡スニヨリ烟草買入ノト
キハ必ス携フヘシ右鑑札料ハ一枚ニ付キ
金十錢ヲ納ムヘシ

但仕入鑑札ハ一戸一枚ニ限ルニアラス
元ヨリ買入ノトキ必携ノ品ニ付キ何枚
ニテモ入用丈ケ願フトキハ渡スヘシ

第五條

一 營業稅上納ハ年々兩度ニ區別シ半年分
宛區戸長ヘ取り集メ其管廳ニ納ムベシ
但其年前半年分ハ一月三十一日限り後
半年分ハ七月三十一日限り其管廳ニ納
ムヘシ

第六條

一 新規營業免許ノ者六月以前ハ全年分七月
以後ハ半年分營業免許ノトキ直ニ營業稅
ヲ納メ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以

前ハ半年分納税スヘシ

但廢業ノ者ハ其トキ直ニ營業鑑札仕入
鑑札トモ返納スヘシ

第七條

一營業鑑札若シ水火盜難過誤等ニテ失却ノ
トキハ其旨ヲ管廳ニ届出テ新規鑑札ヲ申
受クヘシ

但手數料トシテ金貳拾錢ヲ納ムヘシ

第八條

一營業鑑札仕入鑑札ハ貸借ヲ許サス

但改名代換轉居等ノトキハ其旨ヲ管廳
ヘ申立レハ鑑札ヲ引換渡スヘシ尤トモ
前條手數料ニ拾錢ヲ納ムヘシ

第九條

一卸賣營業ノ者ハ烟草卸賣所ト書記シ又小
賣營業ノ者ハ烟草小賣所ト書記シタル看
板ヘ免許鑑札ノ番號ヲ書加ヘ戶外ニ掲ク
ヘシ

但卸賣小賣ヲ兼ルモノハ烟草小賣所ト
書記シ看板ヲ掲クヘシ

第二則 草製印造烟稅

第一條

一 製造烟草ハ玉作箱結紙包各種ノ大小斤目
ニ拘ラス自用ノ人へ賣渡ストキハ總テ其
代價ニ從ヒ烟草印紙貼用ノ上賣出スヘシ
但葉烟草ハ總テ印紙ヲ用ルニ及ハス

第二條

一 製造烟草印紙種類并定價ハ左ノ通り

長印紙 全紙十五枚切 定價二錢五厘
印紙 同 五厘

印紙 同 壹錢
印紙 同 五錢
印紙 同 拾錢

第三條

一 製造烟草印稅割合左ノ通り

烟草代價 印稅一厘
但長
五錢未滿 印稅五厘
十錢未滿 印稅壹錢
同上 印稅貳錢
同上 印稅三錢
同上 印稅三錢

右以上總テ之ニ準シ印稅ヲ增加スヘシ

第四條

一 烟草印紙貼用方畧圖ノ如ク貼用スヘシ

第五條

一 烟草印紙ハ烟草印紙賣捌所ト大書シ官ノ
燒印アル看板ヲ掲クル家ニ限ルヘシ其外
ニ於テハ一切賣買ヲ禁ス

第六條

一 仕入鑑札所持ノ烟草商人へ賣渡ス製造烟
草ニ限リ印紙ヲ貼用スルニ及ハス其仕入

鑑札ヲ証トシテ賣渡スヘシ尤トモ鑑札ヲ
所持セサル者へハ無印紙ノ製造烟草ヲ賣
渡スヲ許サス

第三則 賞罰

第一條

一 卸賣營業鑑札ヲ受ケス營業スル者ハ一个
年營業稅ノ七倍科料ヲ申付ヘシ

第二條

一 卸賣營業鑑札ヲ借受ケ營業スル者ハ前條
同様ノ科料ヲ申付ヘシ貸渡シタル者ハ其

鑑札ヲ取上ケ一ケ年營業稅ノ五倍科料ヲ
申付ヘシ

第三條

一 小賣營業鑑札ヲ受ケス營業スル者ハ一ケ
年營業稅ノ五倍科料ヲ申付ヘシ

第四條

一 小賣營業鑑札ヲ借受營業スル者ハ前條同
様ノ科料ヲ申付ヘシ貸渡シタル者ハ其鑑
札ヲ取上ケ一ケ年營業稅ノ三倍科料ヲ申
付ヘシ

第五條

一 仕入鑑札ヲ所持セスシテ無印紙製造烟草
ヲ買受ルカ又ハ右所持セサル者へ無印紙
製造烟草ヲ賣渡スモノハ各脫稅高ノ貳十
倍宛科料ヲ申付ヘシ

第六條

一 仕入鑑札ヲ借受ル者并貸渡シタル者ハ其
鑑札ヲ取上ケ枚數ニ應シ鑑札料ノ十倍宛
科料ヲ申付ヘシ

第七條

一 烟草印紙ヲ用ユヘキ製造烟草ニ印紙ヲ貼用セス自用ノ人へ賣出ス者ハ脱稅高ノ貳拾倍科料ヲ申付ヘシ

第八條

一 烟草印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ減稅高ノ十倍科料ヲ申付ヘシ

第九條

一 官許印紙賣捌所ノ外ニ於テ烟草印紙ヲ賣捌ク者ハ其品ヲ取上ケ既ニ賣捌タル印紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其

品ヲ取上ケ印紙代ノ五十倍科料ヲ申付ヘシ

第十條

一 一旦用ヒタル烟草印紙ヲ剝取り再用スル者或ハ之ヲ賣買スル者ハ六十圓以下ノ科料ヲ申付ヘシ

第十一條

一 烟草印紙ヲ贋造スル者又ハ贋造セル品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下ノ科料ヲ申付ヘシ

第十二條

一前數條ニ掲クル處ノ犯則人ヲ見届ケ訴出
ルモノアルトキハ事實取糺ノ上ニテ違ナ
キニ於テハ其賞トシテ其科料金ノ半高ヲ
與フヘシ

以上布告類編 ○同月十二日御達ニ日ク官
吏商賈ノ營業制禁ノ違第一條但書ハ左ノ通
改正ス

第一條

一凡官吏タルモノ云々

但神官教導職區戶長郵便取扱人學區取
締役及等外吏ハ此限ニアラス

以上布告類編 ○同月十七日御布告ニ日ク米油限
月賣買ハ當十一月三十日限り取引延期ノコ
トヲ布告シタレトモ尙ホ營業實際ノ慣法等
ニヨリ右期限内取纏メカタキ事情アラハ其
事由ヲ詳記シ管轄廳ヲ歷テ内務省へ申出テ
指揮ヲ受クヘシ布告類編 ○十一月八日大藏省布
達ニ日ク牛馬賣買免許鑑札税烟草税度量衡
税ノ來ル明治九年六月マテ收入ノ分ハ會計

年度八年分へ編入シ右以後ハ其年七月ヨリ
翌年六月マテ收入スヘキ分ヲ其年分へ編入
ト心得ベシ

但牛馬賣買免許鑑札税帳本年十二月マテ
ノ分ハ九年二月十日限り差立同年一月ヨ
リ六月マテノ分ハ別帳ニシ七月三十一日
限り差立右以後ハ其年七月ヨリ翌年六月
マテ一ケ年分七月三十一日限り差立ヘシ
且現在稼人仕譯帳ハ向後差出ニ及ハス
以上大藏省布達全書 ○同月十日御布告ニ曰ク烟草

税則第一則第一條中葉烟草ノマ、取扱フト
イフコトヲ除キ同則第八條但書ヲ左ノ通り
改正ス

但改名代換轉居等ノトキハ其管廳へ申立レ
ハ鑑札ヲ引替渡スヘク手数料トシテ營業鑑
札ハ金貳拾錢仕入鑑札ハ金拾錢ヲ納ムヘシ
布告 ○同月同日御布告ニ曰ク明治七年六月
布告ノ酒造絞油商船并生糸牛馬賣買鑑札規
則追加ハ廢止シ更ニ商船生糸牛馬賣買鑑札
規則中左ノ通り追加ス

商船

生糸

牛馬

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ
毀損ノトキハ其旨ヲ管廳ニ届ケ新ニ鑑札ヲ
申受クヘシ但手數料トシテ鑑札一枚ニ付金
貳拾錢ヲ納ムヘシ類布編告○十二月十四日御布
告ニ曰ク煙艸稅則中掲載ノ製造煙艸印紙ハ
左ノ見本ノ通りナリ布告類編○同月十九
日御布告ニ曰ク從來人民ニ於テ海面ヲ區畫
シ捕魚採藻等ノタメニ用ルモノアリ右ハ固
ヨリ官有ニシテ本年二月布告以後ハ所用ノ

權ナキニヨリ從前ノ通りニ爲シタキモノハ
其管轄廳ニ願出ヘシ類布編告○同月二十八日御
布告ニ曰ク本年十月布告煙草稅則第二則中
第四條并煙草印紙貼用方畧圖ハ左ノ通り改
正ス

第二則第四條

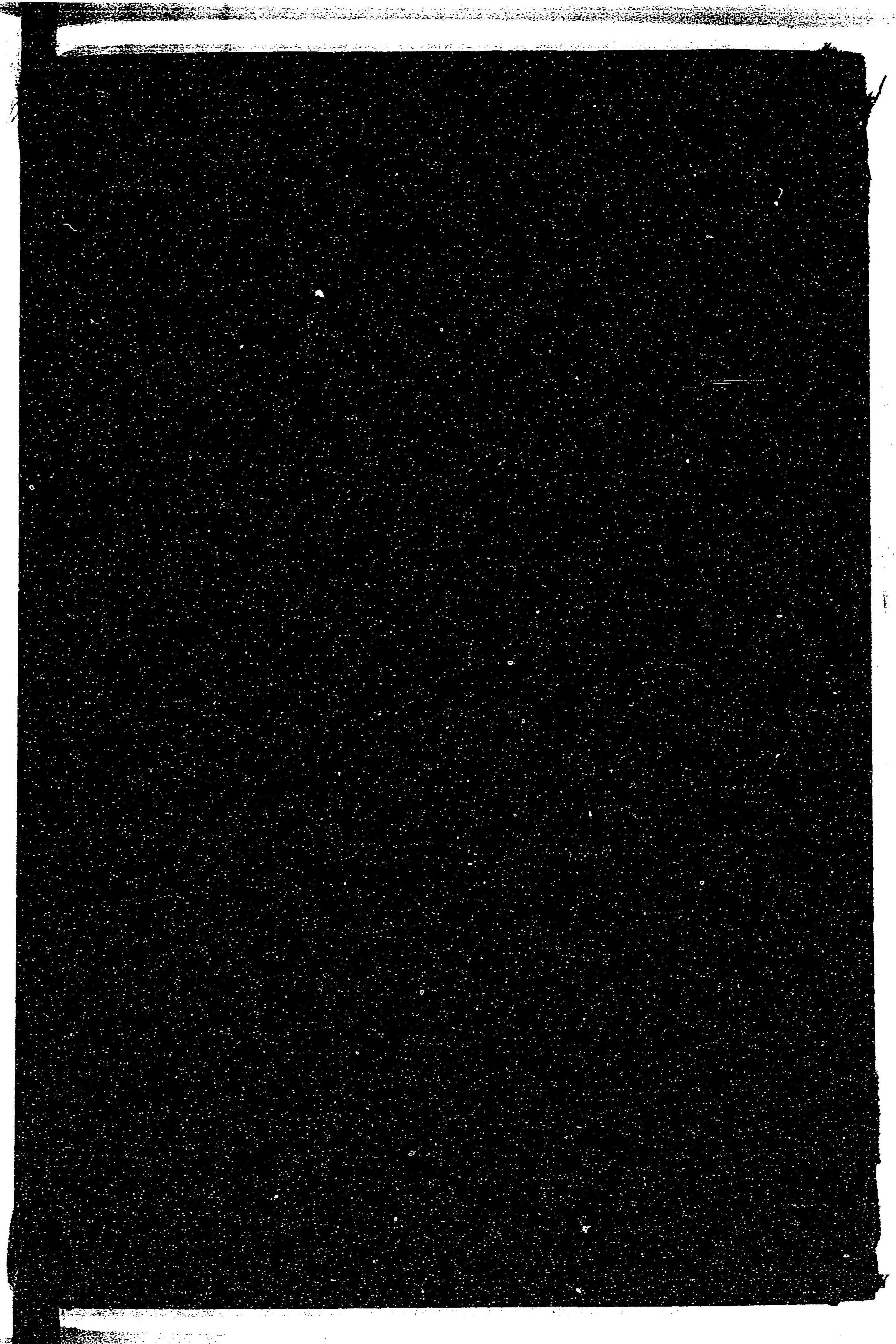
一煙草印紙貼用方畧圖ノ如ク賣主ニ於テ印
紙ヲ貼用シ其全面ノ中心ヨリ端ニカケ實
印或ハ仕切印ヲ押スヘシ

以上
類布編告

大日本貨幣史參考卷十四

29
52





29
52

東泉園書館					
五	二	五	二	屬	類
冊	號	架	函		

